

国連事務総長特別代表(防災担当)と国連防災機関駐日代表が本学を訪問されました (2023/3/12)

テーマ：仙台防災枠組、災害統計、国連防災機関、世界防災フォーラム
会場：東北大学本部・片平キャンパス（宮城県仙台市青葉区）

2023年3月12日に、第3回世界防災フォーラムの終了式に参加するために来仙された水鳥真美 国連事務総長特別代表（防災担当）兼国連防災機関長と松岡由季 国連防災機関駐日代表が、東北大学本部（片平キャンパス）を初めて訪問されました。東北大学本部から大野英男 総長、植木俊哉 理事・副学長が、当研究所から今村文彦 総長補佐・所長、栗山進一 災害医学研究部門長（次期所長）、小野裕一 防災実践推進部門長、竹谷公男 2030 国際防災アジェンダ推進オフィス特任教授（客員）が出席しました。

東北大学は第3回国連防災世界会議（仙台防災枠組が採択）の誘致支援および開催での貢献、その後の災害統計グローバルセンターの設立、「世界津波の日」の啓発活動や「世界津波博物館会議」などへの協力を行っています。現在、仙台防災枠組は、2015年から8年ということで中間レビューのプロセスが行われています。その総括として、5月には国連総会ハイレベル会合が行われる予定であり、そこでの大学などの学術の貢献は重要であることが議論されました。特に、災害関連のデータについてはハザード・脆弱性・暴露の3要素の実態理解に不可欠であり、これまでの中間レビュープロセスにおける議論でも明らかになっている通り、分析に値するデータが十分ではない状況であることが指摘されました。また、Build Back Better というスローガンは浸透したが、中間レビューのプロセスの中でもどのように実施されているのかを裏付ける事例が十分になく、真の Build Back Better を目指すには学術からの貢献が重要であり、今までの協力実績を基に、東北大学には今後も連携を期待したい、などの議論が行われました。

今回の訪問により、東北大学及び災害科学国際研究所は、一層、国連防災機関との連携・協力の方向性を深めることができました。



会談の様子



会談の様子



会談の様子（左：大野総長・右：水鳥代表）



記念撮影

文責：今村文彦（津波工学研究分野）、小野裕一（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）